

東日本本部ニュース

国労東日本婦人部
発行責任者 佐々木久恵
編集 斎藤七重



NO.133

発行年月日 2006年 8月 30日

第20回 東日本本部定期大会

第一回東日本本部定期大会が八月十一日東京芝弥生会館にて開催されました。

去る八月十一日東京・芝弥生会館にて第一回東日本定期大会が開催されました。

大会では国労本部方針にのとり今後一年間の東日本本部活動方針が討議されました。JR不採用事件の政治的解決を求めるなどして裁判闘争と平行して政治的解決を図る方針を進めたことになりました。

福田弁護士挨拶

採用差別問題は、闘争基本要求をまとめるところまで来ていました。國労にまとまって一本でやるという意思統一はできた。六百人以上の実務作業があるので三年以内に提起するという時効までには間に合わせる。

昇進差別については、従来の合格率が一一%だった。昨年は、二〇%、今年は昨年を上回る合格率だ。今後は前向きに努力する必要がある。

日本の労働運動を牽引してきた国労運動の伝統を国労という看板だけでも守つていかなければならぬ。これから平成採用の人たちにとってどうかということも考えなくてはならない。組合活動として原理原則を貫いても不条理は受けないという力をつけなくてはならない。仕事で頼れるということで若い人たちに影響力を与える存在にならなければならぬ。

JR職場にも非正規社員が増えているので彼らの組織化が課題である。女性社員が増えてきていることも考え女性の権利拡大の取り組みもこれから必要になる。

家族会

北沢副会長挨拶

家族会東日本連合会は三月に東京で総会および親睦学習会を開催した。全国的に高齢化しているが、女性の権利向上と平和と民主主義のためにがんばります。

大会発言より

中央・東京病院

昨年介護休職を取った。申し込みから発令まで1ヶ月かかった。条件が同居していること、夫より

おもてなしをされたが、
多くの不満が定着する
よ。

も給料が多いこと(幸いにも夫が五五歳以上の一〇%カットだつたのでクリア)、扶養していることなどあり中にはやめざるを得ない人もいるのではないか?誰でも取れる休職にする必要がある。

会社はポジティブアクションなどと打ち出しているが、女性専用の休憩室がない、トイレが少ない、静養休暇が取れないほか、産前産後休暇は無給、職場復帰の不安など問題があり、女性が働きやすい条件作りが必要だ。

東京病院は新病棟が完成し、完全予約制、電子カルテなどが導入された。パソコンの立ち上げに時間がかかり、ドクター指示を時間前に確認しておいたために看護師は一時間前に出勤している。予約については電話対応が間に合わない状態だ。患者の氏名を呼ばず番号表示のため患者が、受診から会

計までよくわからないでうぶつろしている現状がある。

病院は意見箱について敏感情で不満があったときにはどんどん意見箱を活用してもらいたい。

浜崎サイさんと澤口さんからお礼状が届きました。

明るく!元気に!に講師で参加の浜崎さんと特別参加していた沢口さんからお礼状が届きましたので紹介します。沢口さんは庭

次回東日本婦人部常任委員会
2006.09.02 11:00 新橋交通会館
実態調査について検討予定です。

いっぱいに花を咲かせて楽しんでいるようですよ。

